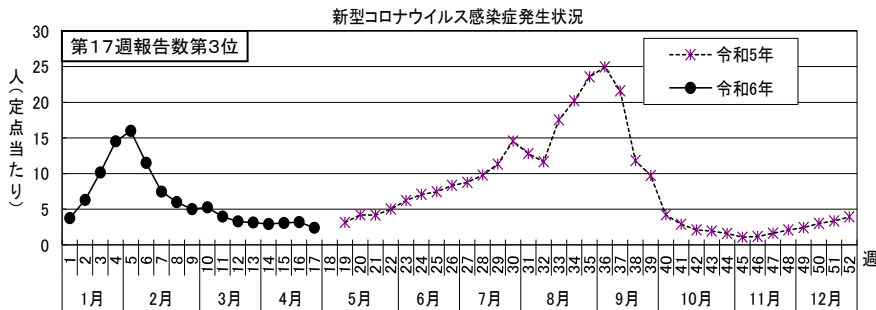
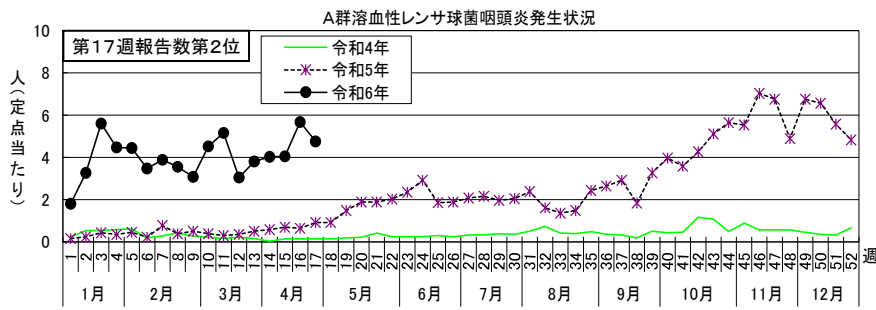
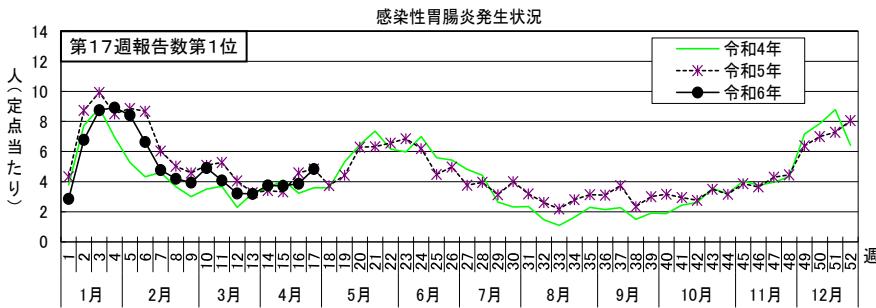


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年4月22日（月）～令和6年4月28日（日）〔令和6年第17週〕の感染症発生状況

第17週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 新型コロナウイルス感染症でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.84人と前週（3.86人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.76人と前週（5.68人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.39人と前週（3.20人）から減少しました。

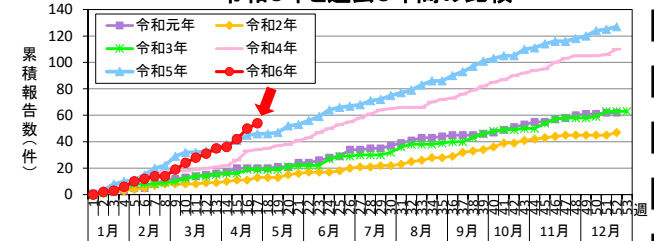


梅毒の報告数が増加！～先天梅毒に要注意～

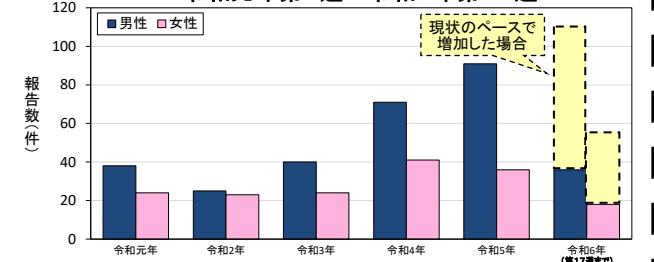
川崎市における梅毒の報告数は、今年は第17週（4月22日～28日）までに54件となり、過去最多となった昨年の同時期を上回っています。現状のペースで増加すると、男女ともに過去最高の報告数になると予測されます。

梅毒は抗菌薬治療が非常に有効ですが、治療が十分に行われないと、長期間の経過で心臓等に重大な合併症を起こすことがあります。また、妊婦が感染すると、早産や流産の原因となったり、お子さんが先天梅毒を発症する可能性があります。お子さんを守るためには、定期的な妊婦健診等で早期に発見し、適切な時期に治療を行うことが重要です。

川崎市における梅毒の累積報告数の推移
～令和6年と過去5年間の比較～



川崎市における梅毒の性別発生状況
～令和元年第1週～令和6年第17週～



先天梅毒について

【症状】

- 出生時は無症状のことが多い。
- 早期先天梅毒（生後数か月以内に発症）
皮膚症状、鼻炎、肝脾腫、骨軟骨炎等
 - 晩期先天梅毒（多くは2歳以上で発症）
実質性角膜炎、感音性難聴、歯牙変形等

【予防】

母の妊婦健診等による早期発見、早期治療

【治療】

抗菌薬治療